

活動報告

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第 62 期生名簿 (2016 年 4 月～2016 年 9 月) [9 名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Hashem Shaharior	ハシエム	バングラデシュ	生物資源科学	広島大学
Estilo Emil Emmanuel Cabrera	エステイロ	フィリピン	生物機能開発学	広島大学
Ha Thi Thu Trang	チャン	ベトナム	教育学	広島大学
Ko Ko	ココ	ミャンマー	疫学	広島大学
Mojoo Jonathan	モジョ	マラウイ	情報工学	広島大学
Safi Syed Ragib	サフィ	バングラデシュ	化学工学	広島大学
劉志軍	リュウ	中国	輸送・環境システム	広島大学
Dinh Thi Thu Hang	ハン	ベトナム	幼児教育学	広島大学
Salama Nadiatus	ナディア	インドネシア	組織行動論・組織心理学	広島大学

第 63 期生名簿 (2016 年 10 月～2017 年 3 月) [13 名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Lee Seonghoon	イー	韓国	教育思想	広島大学
Nyako Lorna	ローナ	ケニア	比較国際教育学	広島大学
Angeles Dave De Guzman	デーブ	フィリピン	理科教育	広島大学
Zaragoza Sarah Ramilo	サラ	フィリピン	物理教育	広島大学
Stefano Kristoforus Sebastian	ステファノ	インドネシア	機械システム工学	広島大学
C.Vimal Prakash	ビマル	インド	機械システム工学	広島大学
K.N.Gokulkumaar	ゴクル	インド	機械システム工学	広島大学
Siribunyaraj Kunassanan	ドリーム	タイ	機械物理工学	広島大学
Vega Antonio Ramirez	トニー	メキシコ	システムサイバネティクス	広島大学
Sihombing Timothy Reinaldo	ティム	インドネシア	輸送・環境システム	広島大学
Hanifa Aruni Dinan	アルニ	インドネシア	輸送・環境システム	広島大学
Rozy Mohammad Irwan Fatkhur	イルワン	インドネシア	化学工学	広島大学
Kamaruddin Muhammd Irfan	イペン	インドネシア	視覚病態学	広島大学

講師一覧

第62期（2016年4月～2016年9月）

専任 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 松村一徳

第63期（2016年10月～2017年3月）

専任 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 杉本雅恵

第62期(2016年4月～2016年9月)予定表

	行事／試験等	見学	備考
4/4- 4/8	4/5 (火) 11:00 オリエンテーション(K308) 4/6 (水) 13:30 開講式 (学士会館レセプションホール)		4/6 (水) 16:30 新入留学生オリエンテーション(K104)
4/11- 4/15			
4/18 - 4/22		4/22 (金) 広島市	4/22 (金) 17:00 ホストファミリー対面式
4/25 - 4/29			4/29 (金) 昭和の日 (祝日)
5/2 - 5/6			5/3 (火) 憲法記念日 (祝日) 5/4 (水) みどりの日 (祝日) 5/5 (木) こどもの日 (祝日)
5/9- 5/13			
5/16 - 5/20			
5/23 - 5/27		5/27 (金) 宮島	
5/30 - 6/3			
6/6 - 6/10	6/9 (木) 中間テスト		
6/13- 6/17			
6/20 - 6/24			
6/27 - 7/1			
7/4- 7/8			
7/11 - 7/15			
7/18 - 7/22		7/22 (金) マツダ	7/18 (月) 海の日 (祝日)
7/25 - 7/29	7/28 (木) 期末テスト		
8/1 - 8/31	夏休み		
9/1 - 9/2	特別講義		
9/5 - 9/8	9/5 (月) - 9/7 (水) 特別講義 9/8 (木) 成果発表会、修了式		

第 63 期(2016 年 10 月～2017 年 3 月) 予定表

	行事／試験等	見学	備考
10/3- 10/7	10/4 (火) 11:00 オリエンテーション(K308) 10/5 (水) 13:30 開講式 (学士会館 レセプションホール)		
10/10- 10/14			10/10 (月) 体育の日 (祝日)
10/17 - 10/21			
10/24 - 10/28		10/28 (金) 広島市	10/28 (金) 17:00 ホストファミリー対面 式
10/31 - 11/4			11/3 (木) 文化の日 (祝日)
11/7- 11/11			
11/14 - 11/18			
11/21 - 11/25		11/25 (金) 宮島	11/23 (水) 勤労感謝の日
11/28- 12/2			
12/5 - 12/9	12/8 (木) 中間テスト		
12/12- 12/16			
12/19 - 12/23			12/23 (金) 天皇誕生日 (祝 日)
12/26 - 1/6	冬休み		
1/9 - 1/13			1/9 (月) 成人の日 (祝日)
1/16 - 1/20		1/20 (金) マツ ダ	
1/23 - 1/27			
1/30 - 2/3			
2/6- 2/10			2/11 (土) 建国記念の日 (祝 日)
2/13-2/17			
2/20-2/24	2/21 (火) 期末テスト 2/22 (水) -2/24 (金) 特別講義		
2/27-3/1	2/27 (月) -2/28 (火) 特別講義 3/1 (水) 研修成果発表会・修了式		

日本語教育部門：日本語・日本事情 (2016年4月～2017年3月)

田村 泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	34	35
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	32	30
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	30	37
総合日本語初級ⅠD	1・1	2	2	24	33
総合日本語初級ⅠE	1・1	2	2		
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	10	21
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	14	16
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	14	20
総合日本語初級ⅡD	1・1	2	2	13	20
総合日本語中級ⅠA	1	2		21	
総合日本語中級ⅠB	1	2		24	
総合日本語中級ⅠC	1	2		22	
総合日本語中級ⅠD	1		2		23
総合日本語中級ⅠE	1		2		25
総合日本語中級ⅠF	1		2		20
総合日本語中級ⅡA	1	2		28	
総合日本語中級ⅡB	1	2		26	
総合日本語中級ⅡC	1	2		26	
総合日本語中級ⅡD	1		2		33

総合日本語中級ⅡE	1		2		32
総合日本語中級ⅡF	1		2		42
日本語聴解特別演習A	1	2		20	
日本語聴解特別演習B	1		2		27
日本語分析特別演習A	1	2		26	
日本語分析特別演習B	1		2		42
日本語表現特別演習A	1	2		14	
日本語表現特別演習B	1		2		22
日本語語彙特別演習A	1	2		22	
日本語語彙特別演習B	1		2		31
映像日本語特別演習A	1	2		17	
映像日本語特別演習B	1		2		19
日本語・日本文化特別研究ⅠA	4		4		1
日本語・日本文化特別研究ⅠB	4		4		1
日本語・日本文化特別研究ⅠC	4		4		1
日本語・日本文化特別研究ⅡA	4	4		4	
日本語・日本文化特別研究ⅡB	4	4		3	
日本語・日本文化特別研究ⅡC	4	4		3	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	3	15
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	5	24
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	9	12

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教員	石原 淳也・深見 兼孝・堀田 泰司・山中 康子・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
担当教員	田村 泰男・中川 正弘・堀田 泰司・下村 真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞/他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： 音楽の音と効果、いい数字・悪い数字、「おもしろい」日本、くしゃみ、わたしの町、この日に食べなきゃ意味がない！、お相撲さんの世界、第一印象
テキスト	「中級を学ぼう -日本語の文型と表現 5 6」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教員	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り 50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教員	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、VたN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現82」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」(凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならぬ、～まま、～ようとしぬ、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」 (凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習A
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に判断する。

授業科目	日本語聴解特別演習B
担当教員	深見 兼孝
目 標	ニュースの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第7回 金融 第8回～第9回 政治・行政 第10回～第15回 社会・生活 各回とも語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによるチェックの順で授業を行う。
テキスト	『ニュースの日本語聴解50』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に判断する。

授業科目	日本語分析特別演習A
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習B
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習A
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習B
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語語彙特別演習A
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習B
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習A
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習B
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、 地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB
担当教員	山中 康子・渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	ガイダンス、ひらがな、毎日の挨拶、ひらかな練習、自己紹介、カタカナ、疑問表現、かな練習、提示の表現、目的語、日常活動の表現、時間表現、行動予定の表現、完了時制1)、移動の動詞、時の表現、勧誘の動詞、存在の動詞、位置の表現、目的の表現、授受の表現、形容詞、完了時制2)、希望の表現、好悪・程度の表現、比較・最上級、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅠ」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA
担当教員	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	ガイダンス、レベルチェック、初級1の復習、理由の表現、丁寧表現、助数詞、依頼表現、継起的動作、時間・期間の表現、進行中の動作、習慣・家族について話す、許可・禁止の表現、動詞の否定形、経験の表現、助言・提案の表現、スケジュールをメモする、動詞の辞書形、可能表現、趣味を語る、名詞句、意見を述べる、伝言を伝える、普通体の使い方、同時制の従属節、条件・譲歩の従属節、話し言葉の文体、状態の変化、お礼の手紙を書く、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅡ」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目 (2016年4月～2017年3月)

田村 泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
Elementary Japanese I A	2		2		8
Elementary Japanese I B	2		2		7
Elementary Japanese I C	2		2		8
Elementary Japanese I D	2		2		8
Elementary Japanese I E	2		2		
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	5	5
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	4	5
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	5	5
Intermediate Japanese I A	2		2		16
Intermediate Japanese I B	2		2		16
Intermediate Japanese I C	2		2		14
Intermediate Japanese I D	2	2		14	
Intermediate Japanese I E	2	2		13	
Intermediate Japanese I F	2	2		9	
Intermediate Japanese II A	2		2		22
Intermediate Japanese II B	2		2		21
Intermediate Japanese II C	2		2		10
Intermediate Japanese II D	2	2		18	
Intermediate Japanese II E	2	2		19	
Intermediate Japanese II F	2	2		11	

Advanced Japanese A (Listening)	2	2			21
Advanced Japanese B (Listening)	2		2	7	
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2			18
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2	12	
Advanced Japanese A (Expression)	2	2			13
Advanced Japanese B (Expression)	2		2	5	
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2			21
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2	17	
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2			16
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2	7	

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C・I D
担当教員	石原 淳也・深見 兼孝・堀田 泰司・山中 康子・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教員	恒松 直美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞/他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教員	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、 弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、 上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、 アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教員	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか、缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価	出席と試験および宿題による評価

・レベル4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教員	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとし、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教員	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」 (凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教員	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き、～向け、～における、～上、～うえで、～なり、V たN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの</p>
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教員	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前に先ず、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」 (凡人社)
成績評価	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによるチェックの順で授業を行う。
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に判断する。

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	ニュースの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第7回 金融 第8回～第9回 政治・行政 第10回～第15回 社会・生活 各回とも語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによるチェックの順で授業を行う。
テキスト	『ニュースの日本語聴解50』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に判断する。

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

第31期（2015 - 2016） 日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本国際センター（2010年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されており、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして(3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第31期は国際センター受け入れのインド、ベトナム、インドネシア、タイ、ミャンマー、アメリカ、タジキスタン、チェコからの学生それぞれ1名、部局間協定に基づく文学部受け入れのインドネシアからの学生が1名、教育学部受け入れのニュージーランドからの学生が1名の計10名でプログラムを実施した。

<特別講義等>

2015年度(第31期)に実施した日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10月		
2日	プレイズメントテスト1 オリエンテーション	中川
6日	開講式	
16日	広島見学1(広島城・平和公園)	石原
23日	特別講義「音声学」	石原
30日	広島見学2(現代美術館ほか/ホストファミリー対面)	中川
11月		
6日	特別講義「日本語と文体 I」	中川
13日	特別講義「現代日本語の語彙 I」	田村
20日	火曜スケジュールのためプログラム講義なし	
27日	宮島見学	石原
12月		
4日	特別講義「現代日本語の語彙 II」	田村
11日	マツダ見学	石原
18日	特別講義「俳句入門」	浮田
1月		
8日	特別講義「インド仏教と日本文化」	本田
15日	特別講義「日本社会とジェンダー」	恒松
22日	特別講義「世界の平和教育」	中矢
29日	特別講義「社会言語学」	永田
2月		
5日	春休み前ミーティング	中川
3月		
30-31日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川
4月		
8日	プレイズメントテスト1	
15日	オリエンテーション2	中川
22日	サタケ見学	中川
29日	ゴールデンウィーク	
5月		
6日	構想発表準備	

13日	研修レポート構想発表	石原
20日	特別講義「日本語と文体2」	中川
27日	尾道見学	田村
6月		
3日	特別講義「日本語と方言-沖縄のことば-」	多和田
10日	呉見学：大和ミュージアム+倉橋島：長門の造船歴史館	中川
17日	特別講義「比較言語文化論の視点」	浮田
19日（日）	ホームステイ協会交流会	中川
24日	振り替え 休み	
7月		
1日	特別講義「古事記と日本神話」	石原
8日	中間発表準備	
15日	研修レポート中間発表 1/2	石原
22-23日	松江・出雲見学旅行	石原
29日	研修レポート中間発表 2/2	石原
9月		
5日	研修成果発表会、修了式	石原

第17期 平成28年度(2016年度) 日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度、20年度は5名、21年度2名、22年度5名、23年度5名、24年度は6名と途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、25、26、27年度に続き28年度も7名（うち理学部1，工学部6）の予備教育生を受け入れることとなった。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より21年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、22年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されている。国際センター（旧留学生センター）からはセンター長のほか、石原准教授が委員・副部会長として部会に参加している。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 学生チューターの指導

等の業務を行っている。

本学で実施する予備教育について

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。また、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3, 4 を履修させていたが、22 年度からレベル 4, 5 を履修させることとなった。しかしながら、レベル 4 で使用されている教科書が、韓国国内で行われている予備教育の前半課程において開講されている一部の日本語の授業で使われていることから、25 年度より、本予備教育生のためだけにレベル 4 相当の授業を二コマ 10 週にわたって開講することとなった。なお、従来より、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文、日韓文化論を各 1 コマ開設している。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学、物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。以前は、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、23 年度からは、広島大学マスタースという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになり、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとなっている。

また、英語に関しては外国語教育センターの全学向け「英語研修プログラム」から自分にあったものを選び、一コマ受講するようになっている。

なお、本年度における時間割、行事は次ページの通り。

時間割

	月	火	水	木	金
1					日本語会話 坂田
2		物理(後半5回) 松尾	数学 今岡	日本語中級B 尾形	日韓比較文化論 坂田
3	化学 谷本・平田	生物 渡辺、設楽、榊井	映像日本語 特別演習B 石原		日本語作文 坂田
4	日本語聴解 特別演習B 深見	日本語中級A 後藤	物理(前半5回) 渡邊	日本語分析 特別演習B 中川	
5	英語(1コマ)				

行事

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	10/1	2 渡日		
W1	10/2-10/8	5(午後)開講式 オリエンテーション 6 授業開始(4コマ～) 7 プレイスメントテスト		
W2	10/9-10/15	10 体育の日	終日 広島見学 14	月なし
W3	10/16-10/22			
W4	10/23-10/29			
W5	10/30-11/5	3 文化の日		
W6	11/6-11/12			
W7	11/13-11/19			
W8	11/20-11/26	23 勤労感謝の日	終日 宮島見学	
W9	11/27-12/3			
W10	12/4-12/10			
W11	12/11-12/17		マツダ見学	
W12	12/18-12/24	23 天皇誕生日		
		冬休み(12/26-1/5)		
W12	1/6-1/7			
W13	1/8-1/14	9 成人の日		月なし
W14	1/15-1/21			
W15	1/22-1/28	専門科目終了		
W16	1/29-2/4			
W17	2/5-2/11	11 建国記念日		
W18	2/12-2/16	春休み(2/17-)		
	3月中下旬	修了式		

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム活動報告

恒松直美・堀田泰司

沿革

1993年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange : 通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム(Hiroshima University Study Abroad Program, 以下HUSAプログラム)は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学 66 大学及び 2 コンソーシアム(University Studies Abroad Consortium, USAC 及び University Mobility in Asia and the Pacific, UMAP, アジア太平洋大学交流機構)と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し、新しく学生主導型で進める「グローバル化支援インターンシップ」を開講し、地域と協力して地域社会がグローバル社会に対応するための地域活性化プロジェクトにも取り組むとともに、「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」にも挑戦するなど地域社会との連携を学生が自主的に取り組む挑戦も開始した。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムのINU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指し UMAP (University Mobility in Asia and Pacific) 事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うため UMAP が開発した UCTS (UMAP 単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme) を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めて

いる。現在は、UMAP が新たに開発した USCO (UMAP Student Connection Online) 事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSA プログラム開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際センターの国際教育部門の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

1. 受け入れプログラムの概要

- ・ **受け入れ期間**：一学期または一学年
- ・ **募集人員**：約 40 名
- ・ **募集方法**：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ **応募資格**：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (2) 原則として自国の大学の正規課程 3 年次の学部学生（協定校によっては、大学院生も含む）
 - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - (4) 非英語圏から応募する学生にあっては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ **選考方法**：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- ・ **学生の身分と受け入れ方法**：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ **授業料等の不徴収**：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ **カリキュラム**：授業科目は、3 つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語による支援を行う授業、または日

本人学生向けに易しい英語で授業を行うものであり、日本人学生と共に履修する。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施している日本語（初級・中級・上級）及び日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2016-2017年度に開講された授業科目一覧表である。

2016-2017度（2016年10月～2017年7月）授業科目一覧

2016 度秋学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Family Life in Japanese	2 単位	教育学部
Japanese Business and Organizational Management	2 単位	教育学部
Seminar in English Debate	2 単位	総合科学部
Introduction to Phonetics and Phonology	2 単位	総合科学部
<3T> The Independent Study on Japanese Companies and Organization	1 単位	教育学部
<3T> The Independent Study on Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
<3T> The Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部
<3T> Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Introduction to Environmental Chemistry	2 単位	工学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship I: Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship II: Practicum	2 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyle B	2 単位	総合科学部
<3T>Study on Japanese Companies and Organization	2 単位	教育学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Tropical Aquaculture	2 単位	生物生産学部
Global Environmental Issues and Management	2 単位	生物生産学部
Insect Science	2 単位	生物生産学部
Fish Production	2 単位	生物生産学部
Plankton Biology	2 単位	生物生産学部

Physiology of Field Crop Production	2 単位	生物生産学部
Animal Science and Technology	2 単位	生物生産学部
Tropical Biosphere Science I	2 単位	生物生産学部
Tropical Biosphere Science II	2 単位	生物生産学部
Molecular-Level Understanding of Functionality of Foods	2 単位	生物生産学部
Modern Food Science	2 単位	生物生産学部
English Phonology	2 単位	文学部
<3T>Earth Environmental Chemistry	2 単位	総合科学部
Topics in Algebra	2 単位	理学部
Geometry D	2 単位	理学部
Mathematical Analysis B	2 単位	理学部

2017 度春学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Politics and Foreign Relations of Japan	2 単位	法学部
<2T> Study on Japanese Companies & Organizations	2 単位	教育学部
<1T> The Independent Study on Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
<1T> Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
<2T> The Independent Study on Japanese Companies and Organizations	1 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Society and Gender Issues	1 単位	教育学部
Glocal Leadership Development: Practicum	1 単位	教育学部
Special Subject IV	2 単位	経済学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
CMOS Logic Circuit Design	2 単位	工学部
Second Language Acquisition	2 単位	総合科学部

Introduction to Advanced and Integrated Science	1 単位	理学部
<2T> INU Collaborated Special Lecture	2 単位	教養教育

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (リスニング)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (映画)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (古典)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (語彙)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会・文化 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会と文化 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の思想・哲学 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本思想と哲学 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	国際センター

日本の地域・文化 B	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の映像文化史 A	2単位	秋・春学期	国際センター

・**受け入れ体制の整備**：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎(日本人・留学生混在型)を用意する。(3) 日本人学生サポーターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障(広島大学)とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2016-2017 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2016-2017 年度は 40 名の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2016-2017 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 11 名、女子学生 29 名であった。

III. 2016-2017 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

◆ 申請と選考

2016 年度募集要項は、2016 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA プログラム参加者が正式に決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、本年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

◆ 渡日前の情報の提供

渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂して各学生にメール添付で送付した。また、ホームページで HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よく

ある質問」を掲載し、留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には、電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

◆ チューターオリエンテーション

日本人学生チューターに対し、今年度も事前に2回の説明会を行った。第1回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第2回目は、留学生が来日する直前に、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

◆ 見学・体験学習

2016年2月には、「グローバル化支援インターンシップ」を受講する留学生インターンが担当教員の指導のもと呉市倉橋町で開催される「倉橋フェスティバル」に参加し、地域行政の協力を得て国際交流企画に挑戦した。訪問者12,000人と言われる商業祭において地域住民と留学生の交流の場を留学生の企画により実現する貴重な国際的体験学習の場となった。2016年度秋学期も、例年のように10月に呉市吉浦秋大祭見学ツアーを行い、日本文化の体験学習の機会を提供した。日本の地域に伝わる祭りの歴史と地域社会のしくみについて学ぶとともに来日直後の留学生間及び地域の人々との国際交流の場ともなっている。

◆ 授業科目の開設状況

短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語科目が短期交換留学生のために開講された。日本語科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

◆ 「グローバル化支援インターンシップ」

2003年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年インターンとして地域企業に2週間派遣してきた。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010年度後期からは社会体験者講話に基づいたPBL(課題発見解決型学習法)による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築してきた。

2012年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップⅠ: キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ: 実習」と題して新しく「学生主導型」の交

換留学生向けインターンシップの授業を開講した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の持つ日本文化の観念的知識を地域と協働して地域社会で実践知として生かす国際的体験学習の場を構築している。留学生がリーダーシップを発揮しつつ自らマネジメントを行うプロジェクトは留学生に多角的な学びをもたらしている。

◆ 多国籍留学生による地域と協働する実践研究グループ・プロジェクト

2015-2016年度はHUSAプログラム留学生の多国籍チーム（7グループを構成）による「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」に各グループでテーマを決めて取り組んだ。2016-2017年度は、留学生が地域と協働で自助支援プロジェクトに取り組んだ。学内関係者及び地域関係者、学校関係者を招聘し、企画会議・中間発表会・最終発表会を開催してプロジェクトの成功に向けて地域協働で議論し、改善のための施策について検討する場を持った。「広島弁リーフレット作成」、「留学生のための調理法・食品に関するボキャブラリー・周辺のお店マップ」、「地震対策」など留学生の視点から自助支援のプロジェクトに取り組んだ。

◆ 文化交流支援活動

9月に来日した直後に行うHUSAプログラム・オリエンテーションは2006年度より2日間に渡って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や日本文化理解のためのグループ・ワーク、クラブ紹介、HUSAプログラム参加留学生間の交流及び広島大学の学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。

国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期交換留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人サポーターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生を採用し、充実した支援の提供に努めている。

◆ 地域貢献

2003年から2006年度まで、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話の依頼があり、フランス・韓国(2003)、アメリカ・カナダ・ギリシャ(2004)、ドイツ(2005)、タイ(2006)からのHUSA留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話す体験を持った。担当教員も、2011年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。2011年度より「グローバル化支援イン

ターンシップ」により地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献する留学生の国際的体験学習を企画してきた。地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画してきている。これらの体験学習により日本の地域社会と連携する力もつけつつある。

◆ HUSA 広報活動

HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。2014年5月にはHUSA フェースブックを立ち上げ最新のニュース提供を行っている。また担当教員の研究ホームページにおいてHUSA プログラムの授業や国際教育・異文化間教育等の分野に関する研究の紹介をしている。

◆ HUSA プログラム評価

プログラムの改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布、回収し、結果をまとめ、プログラムの改善に役立てている。アンケート調査結果は短期留学交流プログラム部会において報告し、改善のための示唆を得ている。

IV. 2016-2017 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2016 年 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、中旬には短期留学交流プログラム部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、5 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2017 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考の概要である。

1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ1学期または概ね1年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996年後期から開始され、2017年8月現在アメリカ、カナダ、ブラジル、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、インド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、モンゴル、中国、香港、台湾、韓国、トルコ、イギリス、オースト

リア、オランダ、スウェーデン、スペイン、セルビア、ドイツ、フィンランド、フランス、ポーランド、リトアニア、ロシアにある 93 の協定大学から交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、メキシコ、コスタリカ、イタリア、フランス、スペイン等へも派遣している。さらに非営利団体である「あしなが育英会」とも協定を締結し、留学生を受け入れてきている。

2. 特徴：

- ・ **授業料不徴収**：本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- ・ **奨学金**：日本学生支援機構による留学生交流支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- ・ **単位互換制度**：全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。
- ・ **現地コーディネーターのアシスタント**：協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流**：留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・ドイツ語・フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年11月末までに提出する。

5. 面接（口述）試験

(ア) 学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年1月の第1週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による1グループ3名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ5段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の1つの評価指標としている。

6. 選考委員会の実施

(イ) 例年1月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し、選考及び推薦を行っている。

V. 2016-2017 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2016年度の短期交換留学生派遣に関しては、39名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、スウェーデン、スペイン、ドイツ、フィンランド、フランス、オーストラリア、ニュージーランド、中国、台湾、韓国、インドネシア、シンガポール、フィリピンにある22の協定大学及びコンソーシアム・プログラムのUSACを通じてアメリカ、スペイン、フランスの3大学へ派遣した。派遣国は、欧米だけでなく、アジア諸国への派遣も拡大しているが、全協定大学との交流バランスでは受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また、本学では、協定大学が開講する超短期（1学期未満）プログラムへの留学も選考、派遣しており、2016年度は、4大学（韓国2校、ロシア2校）へ合計12名を派遣した。派遣規模は、年々拡大しており、受入れ超過傾向にある協定大学への通常の1学期または1年間の派遣を含め、今後も継続して派遣を拡大していく計画である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：28年度は、毎年5-6月に実施する留学フェア並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び学生アシスタントによる留学相談デスクを設置した。その結果、協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は、いつで

も情報収集し、留学相談できるようになった。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し2度（4月と7月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP学習計画書を6月の第2回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：2016年度も、派遣留学を促進するため、すでに2006年より開講してきたINU特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されているINU特別協力講義は、INUネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用したWebCT上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの1科目（特別講義と集中講義合わせて1セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。

2013年5月には、本学の担当教員が、UMAPがこれまで活用してきたUCTS（UMAP単位互換制度）について、新たな概念（**Asian Academic Credits**, 以下AACs）の導入を提案し、国際理事会にて、承認された。

AACsの概念とは、以下の通りである。

1 UCTS=38~48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13~16 時間の授業時間数(academic hour)が含まれる。

AACsを新たなUCTSの基本理念として導入することにより、UMAP参加大学の多くの間では、1単位の価値は等価と見なすことができ、単位互換が簡素化され、学生交流の促進が期待できる。また、アジア共通の単位互換性度を構築した場合、欧米諸国との単位互換も簡素化され、アジアと他地域の学生交流促進にも貢献することができる。ただし、新た

な概念は科目間の内容の互換性を保証する手法が含まれていないので、今後、さらなる開発が必要である。現在、同様の単位互換の概念は、アセアン諸国等の他の学生交流事業においても、導入が検討されている。特に、ASEAN+3の13か国政府間で、現在、AACsの概念を活用したアジア地域の成績証明・単位互換の枠組の構築が、2016年より検討されており、2018年には、教育大臣会議で基本合意される可能性がある。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2016年

- 5月 * 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員会出席 (恒松)
- 7月 * ハンブルグ大学(University of Hamburg, ドイツ)より表敬訪問
- 8月 * 広島県立日彰館高等学校訪問「日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 吉舎おもてなしプラン国際交流行事」会議 (恒松)
- 11月 * 「地域と協働で創る多文化共生社会」公開国際セミナー開催 (「グローバル化支援インターンシップ」) (広島大学国際センター) (恒松)
* 広島県立日彰館高校グローバル人材育成プログラム 120 - 吉舎おもてなしプラン「広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会」企画・司会 (恒松)

2017年

- 1月 * 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学英語表現」英語合宿における「異文化理解セミナー」講師 (恒松)
- 2月 * 呉市倉橋町「倉橋フェスティバル」における「グローバル化支援インターンシップ」・「グローバル・リーダーシップ・グループ・プロジェクト」実習 (恒松)
* 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員会 出席 (恒松)

日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（アジア非漢字圏）（専門）、 中国語・中国文化特別研修、華語・台湾文化特別研修

本田義央

1. 日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（アジア非漢字圏）（専門）

本プログラムは、中華人民共和国及び台湾の大学で日本について学んでいる学生を2週間本学に受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台の交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として2010年度夏から実施してきたものである。

今年度は、夏期に、中華人民共和国、台湾からに加え、主に大学院生を対象とした「専門」を実施し、冬期には、前年度と同じく、中華人民共和国、台湾、アジア非漢字圏からのプログラムを実施し、通年で6つのプログラムとなった。今年度はじめて実施した「専門」は、文学研究科総合人間学講座との協力により実施したが、最終的にエジプトからの一名のみの受け入れとなった。アジア非漢字圏からの受け入れが冬期のみとなったのは、JASSO 奨学金の追加採択にあわせて実施したためである。

夏期（台湾）	7月5日～20日	11名
（中国）	7月21日～8月5日	72名
（専門）	7月8日～7月27日	1名
冬期（台湾）	1月14日～1月27日	36名
（中国）	2月3日～2月18日	36名
（アジア非漢字圏）	2月19日～3月6日	28名

今年度特筆すべき事は、これまで本プログラムに参加してきた台湾、中華人民共和国、インド、インドネシア、モンゴルに加え、エジプトからの研修生を夏の「専門」と冬期「非漢字圏」に合計3名の研修生を受け入れたことである。

2. 中国語台湾文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（中国）との双方向性をもつ派遣プログラムとして実施してきたもので、前年度は応募者数の問題で中止せざるをえなかったが、今年度は9月5日から9月19日の日程で9名の研修生を北京の首都師範大学に派遣することができた。

3. 華語・台湾文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として実施してきたもので、今年度は、3月1日～3月15日の日程で、台北市の輔仁大学に12名の研修生を派遣した。

研究・その他の活動（2016年4月～2017年3月）

1. 研究論文・著書

恒松直美 「留学生による地域協働の実習のエンパワーメント評価 - 歴史資産を紹介する『国際観光ガイド』インターンシップ -」, 『大学論集』第48集, 2016年, pp.195-209. [研究ノート]

恒松直美 「留学生による日本の地域における『国際観光ガイドインターンシップ』実習の自己評価」 『総合学術学会誌』第15号, 2016年, pp.37-44.

恒松直美 「留学生による地域協働の実習のエンパワーメント評価 - 歴史資産を紹介する『国際観光ガイド』インターンシップ - 」 『大学論集』第48号, 2016年, pp.195-209.

Tsunematsu, Naomi. (2017). Are International Students Culturally Deficit in Japanese Society?: Crossing Cultures Without the Professor's Intervention. Bulletin of International Center of Hiroshima University [Hiroshima Daigaku Kokusai Sentâ Kiyô], 7, 1-16.

中川正弘 「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* - 日本語翻訳と言語操作の非対称性 -」, 『広島大学フランス文学研究』第35号, 2016年, pp. 39-60 (広島大学図書館リポジトリ登録公開版には補遺12頁付)

深見兼孝 「日本語と韓国語における組織団体構文：場所格助詞 데 と 에서 の対照」 『総合学術学会誌』第15号, 2016年4月, pp.13-20 (査読あり)

深見兼孝 「現代韓国語における twi/hwu を修飾する冠形節事態に対する主節事態の時間的後行性を表す構文に関する予備的研究」 『総合学術学会誌』第16号, 2017年3月, pp.11-18 (査読あり)

2. 学会発表

Tsunematsu, Naomi, “International Students’ Agency and Adjustment Paradigm in Internship: Cultural Distance to Local Culture in Japan,” 日本比較教育学会第52回大会, 大阪大学豊中キャンパス, 2016年6月25日

恒松直美 「多国籍留学生と地域との協働 - 『インターンシップ』と『多文化共生の地域

づくり実践研究グループプロジェクト』から見えた教育現場構築の課題 - 」, 留学生教育学会 第21回年次大会(総会・研究大会), 大阪大学中之島センター, 2016年8月27日

3. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学「グローバルインターンシッププログラム」(G.ecbo) 運営委員
恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール研究協力委員
恒松直美 教育開発国際協力研究センター(CICE)学内客員研究員

B. 学会活動

恒松直美 日本総合学会 監事
中川正弘 日本フランス文学フランス語学会 中国・四国支部実行委員
中川正弘 広島大学フランス文学研究会 参与
中矢礼美 日本比較教育学会 常任理事
深見兼孝 西日本言語学会 運営委員
深見兼孝 日本総合学会 理事
深見兼孝 韓国学研究会 会長

C. 講演・ワークショップ等

恒松直美 「日本文化理解グループ・ワーク」 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)オリエンテーション, 2016年9月28日
恒松直美 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学表現」英語合宿における指導, 2017年1月27日, 広島市国際青年会館
恒松直美 「吉舎おもてなしプラン」 国際交流行事企画運営」 広島県立日彰館高等学校 グローカル人材育成プログラム120 (日彰館高校と広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会), 2016年11月12日